

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202114		
法人名	有限会社 アートプロジェクト		
事業所名	グループホーム清水興津の家 (1階)		
所在地	静岡県静岡市清水区八木間町1846		
自己評価作成日	平成28年9月8日	評価結果市町村受理日	平成28年11月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2274202114-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2274202114-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成28年10月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

興津川沿いにあり、山や畑もあり四季の様々な顔のある自然豊かな場所にあります。近くには遊歩道、公園もあり、春には桜の花も見られ、自然を親しみながら散歩をしています。歌、フラダンス等のボランティアの訪問も積極的に受け入れており、利用者様に喜ばれています。絵を描くのが大好きな利用者様と職員がいっしょになって絵を完成させたことの喜びを分かち合い、利用者様と職員との絆を大切にしています。食事は、食材配達業者の福祉用を採用し、栄養面・見栄えの良い調理を職員が作っています、利用者様には大変喜ばれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

清流として知られ、東日本で一番早くアユ漁を解禁するという鮎釣りの名所興津川沿いに事業所はあります。生活保護受給者を快く受入れて全体の8割ともなり、生活支援課には運営推進会議と面接調査日程とを刷り合わせて参加してもらえらるほど行政とのパイプは堅固です。夜勤時にはアセスメント内容を確認して、本人の生活歴や暮らし方を理解するようにしており、理念の「その人らしく、ありのままに」を実践することが日常に定着しています。食事で惣菜がなくなり、ご飯だけ残った人に職員がさり気なく近寄り塩胡麻を振り掛けている様子には、家族に似た阿吽の呼吸が垣間見えました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「その人らしく、ありのままに」を入りに提示し、毎日その実践に向けて行動し、努力しています。	夜勤時にはアセスメント内容を確認して、本人の生活歴や暮らし方を理解するようにしています。切れ間なく「散歩、散歩…」という人には職員が都度散策に付き添ってと、「その人らしく、ありのままに」を実践することが定着しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し、敬老会・防災訓練などに、できる範囲で参加させて頂いています。	中学生の職場体験訪問や地域の敬老会を通じての学童の手紙といった交流がありますが、勤務者が多いこともあり地区内での交流が進みにくいため、「職員をなるべく近くから採用しないと…」という対策も視野にいれています。	現在も夫婦歌謡などの来訪がありますが、地区の現状を鑑みて、積極的なボランティア開拓を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者の方々に何か貢献できる。サービスがないか職員で話あっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1回のペースで実施しています。看取りのテーマが3回あり、1回目の事例時に、アドバイスを頂き参考にさせて頂きました。	地域包括支援センター、民生委員の地区会長と、外部メンバーが少ないこともあって、予め出席できる日程を確認することで、確実に開催できています。看取り例を共に見つめる場とするなど、現場への理解を進めていることを議事録から確認されました。	介護度の低い人を主として、利用者もメンバーに組み込むことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者を積極的に受け入れ、手続等で時々相談にのって頂き、良好な関係を維持しています。	生活保護受給者を快く受入れて全体の8割ともなり、運営推進会議と面接調査日程とを刷り合わせて参加してもらえるほど、生活支援課の力添えも堅固です。介護保険課に運営推進会議の日程案内を出してはみませんが、議事録は必ず届けています。	今後は介護保険課にも運営推進会議開催案内をFAXして出欠の返信をもらうことを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみ施錠、居室の鍵は利用者様の意思に任せ、職員が鍵をすることはありません。	理念に基づき「ありのままに」を実践することで身体拘束排除が叶っています。「出たい」と独りで出てしまう利用者には「待って」とか「だめ」といったスピーチロックを避け、気持ちを聴くことに徹したところ、「出てごめんね」と本人の発語があった、との嬉しいエピソードもあります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の中で、本部から提供されるAA課程の資料を元に勉強会を開き、話しあっています。出席できない職員もその資料には必ず目を通し、防止に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用者様4名成年後見を活用しています。今後も利用者様が要望すれば、活用できるよう支援していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居規約時、契約書・重要事項説明書について具体的に分かりやすく説明し利用者様やご家族の不安や疑問を理解・納得してもらっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	必要に応じてご家族と連絡、話し合い運営推進のメンバーの意見を受け入れ反映させている。	生活保護受給者が大半で家族との関係を築くことは物理的に困難です。利用者本人には「何食べたい」「これしましょうか」「散歩行く？」と声を掛けることが日常茶飯事で、都度「～したい」に応じています。また、不定期発行ですがホームだよりを家族に届けています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議月1回、本部主催の年2回G課程で運営に関する職員の意見や提案を反映させている。	職員会議には隔月で法人の地域責任者が同席し、サービス向上委員会等直接進言する制度も設けられ、管理者やユニットリーダー以外にも窓口があります。1階は食材を業者依頼に、2階は買い物からおこなって手作りというのも職員の意向を尊重した例です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働生産生産改善委員会をもうけ、職員の提案等を重視し、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の更なるレベルアップ集中研修はもとより、社外研修の参加できる機会をもうけています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との意見交換や交流の場を設けるように努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活環境や様子などをご家族より聞いて、不安のない生活を送れるように、見守り・介護するように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の方に施設を見学してもらって、施設での利用者様の生活の様子を見てもらい、ご家族の要望を聞き入れて、不安のないように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の入居までの経緯や既往症、今までの生活の様子などをもとにサービス対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のできる限りの情報を知り、職員側から話しかけ安心感を与えるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の日常生活での変化(体調・行動など)を連絡し、面会時には、日常の様子などを伝えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人より「誰々に会いたい」という訴えがあれば、ご家族に連絡して協力してもらい、会えるようにしています。	家族との縁が薄く、これまでの馴染みの人は少ないものの、中には毎月家族のところへ泊る人もいて、送迎は職員がおこなっています。ゴミ箱を作ったり、貼り絵をしたりと趣味を継続し、また珈琲を飲み続ける人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室で一人で過ごす時間が少なくなるように、レクリエーションに参加してもらったり、フロアでテレビ観戦してもらったり、利用者様同士の会話ができるように努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	日常生活行事などの様子をホームのお便りなどを通じて報告し、安心して頂くよう努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様とのコミュニケーションを通じて、利用者様の思いや意向をくみ取り、出来るかぎり本人の思い・意向に添えるよう努めています。	関わりを通じて「その人らしく」を実践していません。食事で惣菜がなくなり、ご飯だけ残った人に職員がさり気なく近寄り塩胡麻を振り掛けています。様子には、家族に似た阿吽の呼吸が垣間見えます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様本人やご家族から、以前どのような生活をされていたのか、生活環境はどうだったのか、詳しく把握するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様が出来ることを見つけてそれをホームでの毎日の役割として行って頂いています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやプラン変更の際に利用者様の様子や気付いた点などを皆で話し合い、介護計画に活かし、より良いケアを目指しています。	職員会議には研修が必ず入るため、カンファレンスは単独で丁寧におこなわれています。また介護支援専門員は同法人事業所職員と外部者ですが、介護サービス計画書のサービス内容は目標が達成できるよう、具体的な方法が詳細に記されており、感嘆しました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の体調の変化や気づきなど介護記録に記載。申し送りなどで職員間で情報を共有し活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	運営推進会議や職員会議、地域の同業者などの情報を活用しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの性格・介護度を理解して、サポートしている。レクリエーション、歌のボランティアに参加して、楽しみのある生活ができるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月一回の定期受診、体調の急変の際は、速やかに連絡して、指示を仰ぐようにしています。	以前からのかかりつけ医にかかる人が2名いますが、他は全員協力医に変更しています。出張など暫らく空ける場合には連携している医師につないでくださり、看取りにも24時間オンコールで安心です。また週1回来訪する契約看護師によって助言が都度得られています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の看護師の訪問の際、各々の利用者様の日常生活での情報や気づきを伝えていきます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、病院とこまめに連絡をとり合い、利用者様の状態、経過の把握に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にホームとし、できる事とできない事をご家族に伝え、了解して頂いています、終末期の看取り体制、終始連絡を取れる体制を作っています。	運営推進会議で3回続けてテーマとして話し合うほど、本件に真摯に取り組んでおり、議事録からは看取りを通じて自らの介護をあらためて見直しの機会となり、また意欲も高まっていることが視えます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故が起きた際は、事故報告書を作成して、同事故が起きないように話し合いをしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練をおこない、災害時に備えています、また地域主催の防災訓練にも参加しています。	「通報」と消防署職員立ち合いの「総合」とで2回、法定訓練をおこなっています。消防署職員の指導を毎年受けているため、職員は注意事項を共有できていますが、歩けない人が増えているなか、夜勤帯が大きな心配となっていて、課題としています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように声掛けや対応に配慮しています。	「トイレの扉を開けておいたままにしない」といった基本的な事柄については特段ルール化していませんが、リーダーが気配りし、うっかりしてしまう職員に注意を促して是正しています。職員は私語がなく、職員同士の礼節も見られました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の相談にのり、思いや希望にそえるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	これも安全面、職員の人数体制、施設のルール等を優先せざるを得ない状況も多々あり、これからの課題として話合っていく必要があります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なじみの関係が築かれおり、利用者様の好みの服(色・形)もわかっており、その人らしさを意識して支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳、下膳などできることは、手伝って頂いています。調理については職員が献立そって行っています。	1階、2階別々の献立です。ご飯、汁物のほかに主菜、副菜2品つき、家庭的で温もりが感じられる食事で、その人の嚥下状態に合わせて刻みの大きさにバリエーションを加え、「ゆっくりね」と声をかけながら見守りしていることを視認しました。	テレビを消して静かでした。誤嚥の心配もあるとは思いますが、利用者同士の会話もないためBGMといった何らかの楽しみが加わることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材配達業者の食材・献立にそって食事を提供し、片寄りなく栄養バランスがとれています。利用者様の状況に応じ刻み、ミキサー食など形態も配慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、担当職員が声掛け、見守り、介助、入れ歯のケア等して口腔内の清潔を維持するよう支援しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人ひとりの排泄の量や間隔を把握をし、対応しています。又、排泄の訴えない利用者様には、職員が声掛けしてトイレ誘導をしています。	チェック表には時間を細目につけています。尿意のある人がほとんどですが、トイレまでの転倒リスクに対応したり、トイレ内での介助に職員が付添っています。フロアに2箇所あるトイレには災害用の期限切れとなったペットボトル箱が置かれ、有事に備えています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因を考え排尿・排便チェック表により排便のチェックをしています。重度の際は、受診し、医師と相談しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様は週3回入浴しています。体調のすぐれない利用者様は、清拭を行っています、又入浴を拒否される利用者様には、無理をさせません。	3日に1度をめやすにしていますが、拒否には無理強いせず「待つ」ようにして日を替えることもあります。着脱、着衣の折には身体の変化も注意しています。浴剤やかかり湯はおこなっていません。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様が快適に入眠できるように、居室のエアコンで、室温調整などを行い、布団干しやシーツの洗濯で気持ち良く眠れるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様が服用している薬については、薬管理表に記載することにより、職員全員に理解してもらい誤薬がないよう安心して服用してもらっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯ものたたみ、食器拭き、掃除機掛けなど利用者様が出来る仕事は職員の目の届くところで行ってもらうように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の天気や気温を考え、散歩や外気浴にでかけられるよう支援しています。	雨天でない限りは散歩を欠かさず、また近くのコンビニエンスストアや薬局への買い物も気軽にできています。予算がとれないため遠出はありませんが、ドライブでのフットワークは軽く、さった峠辺りまでは足を延ばしています。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設で管理し、各自希望があれば使えるように支援しています。又何か要望がないか職員が声掛けしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から電話の訴えがあれば、管理者よりご家族へ連絡し、利用者様にかわり話しをしてもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンで温度調整をしたり、カーテンでの採光の調整にも努めています。又季節に応じて色々な行事を行っています。利用者様と一緒に掲示ものも作成しています。	1階は「世界遺産になったから…」と祝いの気持ちを一つに、紫や橙等色とりどりのちぎり絵の富士山が制作され、賑わいを高めています。2階からは畑の蜜柑や柿、山の緑で和む風景がありません。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室になっており、プライバシーは守られています。リビングにはソファをおき、ゆったりと思い思いに過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様とご家族で話し合い、使い慣れた生活用品を使用してもらっています。	洋服好きな人はハンガー掛けに吊って並べたり、伴侶が作ったジグソーパズルを壁一面に貼り出し、また塗り絵を眺めると落ち着くという人もいて、「観て楽しむ」居室を確認しました。デッキを持ち込み、音楽三昧の利用者も居ます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家事の手伝い(食器拭き、洗濯物たたみ、掃除等の軽作業)レクエションなど職員と一緒にこなっています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2274202114		
法人名	有限会社 アートプロジェクト		
事業所名	グループホーム清水興津の家 (2階)		
所在地	静岡県静岡市清水区八木間町1846		
自己評価作成日	平成28年9月8日	評価結果市町村受理日	平成28年11月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2274202114-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2274202114-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成28年10月16日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

興津川沿いにあり、山や畑もあり四季の様々な顔のある自然豊かな場所にあります。近くには遊歩道、公園もあり、春には桜の花も見られ、自然に親しみながら散歩をしています。歌、フラダンス等のボランティアの訪問も積極的に受け入れており、利用者様に喜ばれております。歌を歌うの好きな利用者様は、好きな人同士でカラオケで歌を歌っていて、大変喜んでおります。食事は、食材を職員が調達し、利用者様好みの料理を職員が作っています、利用者様には、ご好評です。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

清流として知られ、東日本で一番早くアユ漁を解禁するという鮎釣りの名所興津川沿いに事業所はあります。生活保護受給者を快く受入れて全体の8割ともなり、生活支援課には運営推進会議と面接調査日程とを刷り合わせて参加してもらえらるほど行政とのパイプは堅固です。夜勤時にはアセスメント内容を確認して、本人の生活歴や暮らし方を理解するようにしており、理念の「その人らしく、ありのままに」を実践することが日常に定着しています。食事で惣菜がなくなり、ご飯だけ残った人に職員がさり気なく近寄り塩胡麻を振り掛けて掛けている様子には、家族に似た阿吽の呼吸が垣間見えました。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				